

月報 2021年 10月31日 No.369

石城山岳会

10月号

# 四方通信

石城山岳会事務局編集

苅田岳、前山、杉ヶ峰、屏風（蔵王山、雁戸山、不忘山）

雄国山、雄国沼

尾瀬

旧白河高原スキー場～甲子温泉

二王子岳（1420m）

男沼・女沼・仁田沼

川桁山（1413m）

四時川 沢登り

「谷川岳トマの耳 1963m オキの耳 1977m」

鳳凰三山 夜叉神峠登山口からピストンで

10月登山教室「八ヶ岳（天狗岳）」

石城山岳会登山教室 10月山行「八ヶ岳」報告書

石裂山（879m）

惣山（816m）前山（835m）

弥陀ヶ池（日光白根山 登頂断念！！）

戸隠神社

10月 月例山行 高妻山（2,353m）

# 苅田岳、前山、杉ヶ峰、屏風（蔵王山、雁戸山、不忘山）

2021年6月20日（日）

小林、上遠野、清水、佐藤（幸）

前日まで、天気判断をつけることが出来ず、なんとかもちそうとの情報で行ってみました。登山口近くの駐車場はいっぱい、苅田岳も行こうとレストハウスのある山頂駐車場からスタートしました。ガスがいっぱいで周りの風景が良く見えず、寒いなーと思いながらのスタートでした。あとで外の温度が2℃とわかり、ダウンを置いてきたことを後悔するわたしでした。10分ぐらい駐車場を下山すると太陽の光が少しずつ当たるようになり、体が暖たたまりました。自然の力、急激な温度差を感じながら、足場が昨日の大雨でぬかるんでいる所が多く、すべらないように注意し、一步一步、歩きました。歩きながら、小さな花が少しずつ見られるようになり、花のロードが楽しみになってきました。白、紫、黄色と様々な花を見ることができましたが、名前はわからずのままです。途中、リンゴを小さくしたような花があり名前がわからず、困っている時、一緒に登山していた、他のグループのかたに、花の名前を思いきって尋ねてみると「調べてあげる」と言われ、待っていると、「アプリエーでわからない」と返事が返ってきました。少し残念に思いながら、また一緒に登山していると、地元の方のグループで、話をすることができました。見ず知らずの人と話をしたり、一緒に登山したり出来るのも、自然のなせるわざと思いました。それから、最近若い人の1人登山を多々見ることもあり、皆すごいとおもいました。私なんて、1人で登山する勇気がなく、道迷いしたらどうしようと考えてばかりいるのに。若い女の子が1人でたくましく登山する姿をみると羨ましく思います。

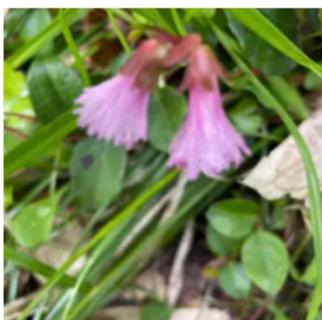
最近、私の在籍している登山グループに加入した方で、道迷いをした時、会員の方に助けてもらい、入会した方がいました。どんなに易しい登山でも、自分や周り方に怪我があれば、その登山は悲しい思い出になってしまいます。登山の楽しみは人それぞれですが、私はみんなと何時間も苦労して歩いたり、仲間と協力して道を探したり、苦労して登山するからこそ、頂上到着時の感動と景色の美しさを堪能できると思いました。私が歩くことに疲れ、休憩をとっても、優しく見守り待っていてくれる仲間がいるからこそ、また頑張るって登山しようと思えると心から思いました。本当にありがとうございました。

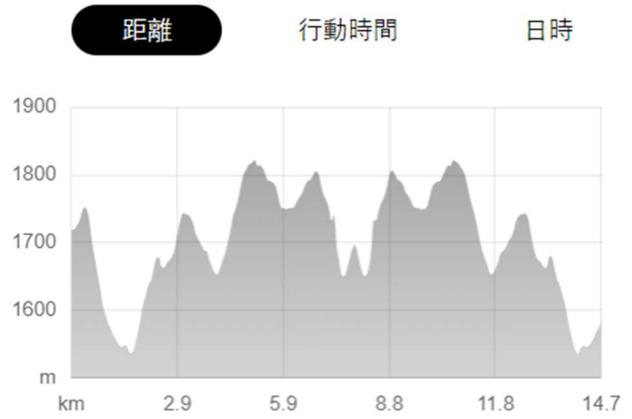
文責：佐藤幸子

## コースタイム

（出発）5：00 湯本ー7：56 苅田領神社ー7：59 苅田岳ー8：38 苅田峠避難小屋ー8：39 苅田峠ー9：01

前山ー9：19 杉ヶ峰ー10：37 屏風岳ー11：21 南屏風岳ー12：18 不忘山（御前岳）ー13：47 南屏風岳ー14：28 屏風岳ー15：23 杉ヶ峰ー15：39 前山ー15：58 苅田峠ー16：00 苅田峠避難小屋ー16：40 苅田岳（到着）





# 雄国山、雄国沼

2021年6月30日

蛭田(みち)佐藤(秀美)佐藤(幸)

平日の休み。予定していた登山がキャンセルになり、何をして過ごそうかと考えていると、山友から「休みとれたよ。」とラインがきました。前日の夕方、雄国沼のニッコウキスゲを見に行くことが急に決まりました。最近、山友や先輩の登山報告を見ていて、雄国沼のニッコウキスゲやコバイケイソウの写真がとても綺麗で、是非、行ってみたいと思っていたので行く場所は直ぐに決まりました。

平日でも雄子沢登山口駐車場は満車のことが多いと聞いていたが、偶然車1台の駐車場が空いてました。

平日なのに登山口周辺には10人ぐらいの登山者がいました。コロナ下のせいか、団体での登山ではなく、2人から3人組の登山の方が多く見られました。登山口出発が9時05分と予定より少し遅れましたが、天気も良く自分たちの登山速度でゆっくり登山開始できました。雄国山山頂に到着すると360°のパノラマで雄国沼、吾妻連峰、飯豊連峰、磐梯山、安達太良山と素晴らしい山々を見ることができました。展望台が立ち入り禁止で残念でした。

その後、雄国沼休憩舎で昼食を取り、休憩をして、雄国沼に向かいました。雄国沼のニッコウキスゲは最盛期で一面に埋めつくす黄色い絨毛のように湿原を覆っていました。青空、白い雲、山の緑の美しさに感動でした。ゆっくり木道を歩き写真を撮り、花の観察をしたり、野鳥の鳴き声、カエルの鳴き声、花の匂いを嗅ぎ、新鮮な空気を吸い、なんて気持ちがいいのだろうと思いました。木道は一方通行ですが、木道の少し広いスペースで座ってくつろぐ方もいました。毎年、金沢峠までシャトルバスで上がってくるハイカーが多く、ニッコウキスゲが咲く時期は大混雑となると聞いてました。コロナ下のためシャトルバスの中止もあり、登山者はそんなに多く見えませんでした。自分の目で見たり、耳で聞いたり、感じたりすることができ、貴重な体験が出来たと思いました。この感動は、しばらく忘れることができないと思いました。

文責：佐藤幸子

## コースタイム

7:10 湯本出発-9:05 雄子沢登山口-  
10:59 雄国山-11:47 雄国沼休憩舎-  
14:11 雄国沼休憩舎-15:36 雄子沢登山口-17:10 湯本到着





距離      行動時間      日時



# 尾瀬

2021年9月11日 12日

蛭田（みち）佐藤（秀美）佐藤（幸）

3人コロナワクチン2回接種後、ということで尾瀬に行く計画を蛭田さんが立ててくれました。

7月17日山岳会のメンバーと尾瀬、燧ヶ岳登山に参加しましたが、体調不良のため、途中で下山しました。皆さんに心配を掛けてしまい申し訳ありませんでした。機会があれば、リベンジしたいと思っていました。山友が尾瀬に誘ってくれました。尾瀬の駐車場に着いて、車の少なさに驚きました。歩き始め、小雨が降ったため、カッパの上下を着て出発しました。少し歩くと小雨が止み、今度は汗をかき始めました。前回体調不良になったので、今回は、前回の反省点、登山の前日は早く寝る。荷物を少なくする。ことに留意しました。いつもは観光客で賑わっている尾瀬ですが、コロナ下ということもあり、出発してからほとんど他人に合いませんでした。こんなに静かで、ゆっくり歩ける尾瀬は、始めてでした。木道をゆっくり歩き巨木を眺め、きのこを観察したり、花を眺めたりしながら歩くことができました。もう少しで檜枝岐小屋に着くと思ったとき足の異変に気がつきました。漢方薬を飲み少し休みましたが、足をつってしまいました。ゴムバンドを足にまきなんとか歩くことができました。水分補給に注意し、栄養補給もしていたのに。すこし自分の体がかかりました。コロナ下で、体操をさぼっていた、自分が悪いのですが、今更増えた体重を急激に減らすこともできず、自分の愚かさを通感しました。

檜枝岐小屋に到着し、宿の主人に「明日はどこを通過してどこに行くの」と尋ねられました。先に到着していた人にも、尋ねていたので、宿泊する人、全員に確認しているようでした。宿泊客の中には、道迷いをして時間通りに来ない人、怪我をして、宿に到着する人、などがいるそうです。山では、予想できないことがあります。自分たちの身の安全だけではなく、宿泊客全員の安全を守るため、日々確認を怠らない、素晴らしいことだと思いました。翌朝、出発する宿泊客に声をかけ、何処を通ったほうがいいのか、アドバイスまでしてくれました。私たちが通ると言った道は「熊が出る可能性があるので、違う道を通ったほうがいいですよ」とアドバイスを受けたので、その通り帰ってきました。無事誰も怪我することなく、具合悪くなることもなく、尾瀬の木道をゆっくり、楽しく歩くことができました。

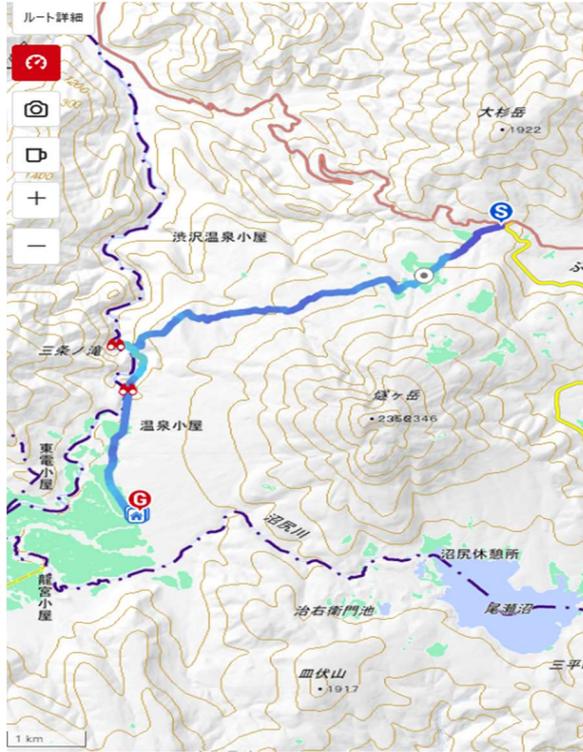
尾瀬の美しい花、様々な色のキノコ、巨木、こけ、三条の滝のダイナミックな水しぶき。など尾瀬の風景に魅了されました。又、宿泊した檜枝岐小屋周辺で見た、夜の素晴らしい星空。木道歩行後の汗を温泉で流すことができ、美味しい夕食、朝食を食べることができ、尾瀬の素晴らしい魅力を体感でき、どれをとっても忘れることができない思い出になりました。1人でリベンジは、なかなか難しいと考えていた私ですが、山友が誘ってくれたおかげで尾瀬を堪能することができました。しかし、燧ヶ岳登山をまだ終えていないので、来年、機会があればリベンジしたいと思いました。計画を立て、実行できた

のは、2人の山友のおかげです。本当にありがとうございました。

佐藤幸子

9月11

9月12



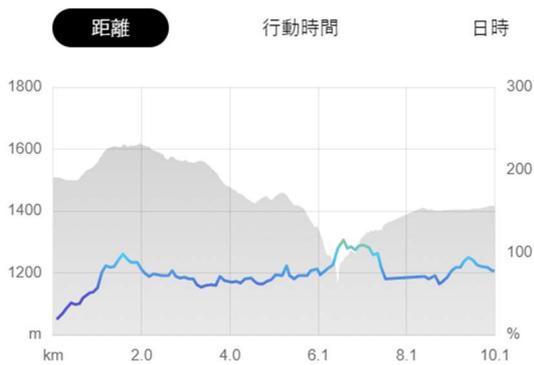
09:24	<b>S</b>	
1時間 5分		
10:29		上田代 >
10:32		
2時間 53分		
13:25		三条ノ滝展望台 >
14:14		
43分		
14:57		平滑ノ滝展望台 >
15:47		
32分		
16:20		尾瀬小屋 >
16:20		弥四郎小屋 >
16:21		桧枝岐小屋 >
16:21		原の小屋 >
16:42		
16:42		第二長蔵小屋 >
16:43	<b>G</b>	

タイム合計 7時間 18分

07:47	<b>S</b>	
07:47		桧枝岐小屋 >
07:47		原の小屋 >
07:49		
07:49		第二長蔵小屋 >
1分		
07:50		尾瀬小屋 >
07:50		弥四郎小屋 >
08:02		
1時間 51分		
09:54		沼尻休憩所 >
09:58		
1時間 6分		
11:04		尾瀬沼ビジターセンター >
11:04		尾瀬沼 >
11:11		
11:11		長蔵小屋 >
11:49		
3分		
11:52		尾瀬沼ヒュッテ >
1時間 20分		
13:12		沼山峠 >
13:14		
13分		
13:27		沼山峠休憩所 >
18分		
13:46		尾瀬御池ロッジ
13:48		
13:48	<b>G</b>	

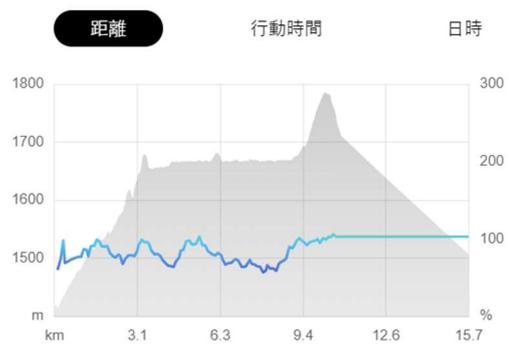
タイム合計 6時間

9月11日



距離 10 km

9月12日



距離 15.7 km

行動予定 9月11日 (土) 集合、出発 4時30分 かげつ斎苑湯本 ー後斎所街道ー石川ー新白川ー289号ー121号ー289号ー401号ー352号ー御池駐車場

8:30ー9:00 御池駐車場出発ー燧裏林道コース

うさぎ田代

15:00ー16:00 檜枝岐小屋

9月12日 (日) 見晴ー尾瀬沼ー大江湿原ー沼山峠

7:00 見晴出発ー沼尻休憩所ー三平下ー尾瀬沼ビジターセンター 大江湿原ー13:00 沼山峠 (シャトルバス)ー14:00 御池 温泉入浴ー17:00 いわき着

蛭田さんの予定をほぼクリアーでき楽しく登山できました。





# 旧白河高原スキー場～甲子温泉

2021年9月12日

片岡 康介 他1人

福島百名山を効率良く歩こうと旧白河高原スキー場から甲子温泉まで縦走しました。日の出後より登り始め、赤面山～前岳～三本槍岳～須立山～甲子山～甲子温泉のルートで約17km（8：35）の道のりでした。途中、藪が残っているかと思っていたのですが、山を管理して下さる方が草刈りをして下さっていたので助かりました。途中旭岳で山岳会の皆さんと会い、びっくりしました。



スタート地点の旧白河高原スキー場



三本槍岳を  
過ぎて鏡ヶ  
沼



今度登って  
みたい旭岳

# 二王子岳（1420m）

2021年9月28日(火)29日(水)

参加者：秋葉、栗崎（透）、栗崎（容）、菊地、山中

台風で中止になった8月教室山行の飯豊連峰が望める山「二王子岳」に登るためテント泊で前泊しました。テント場は二王子神社の境内にある広場で炊事場とトイレが整備されていました。テン場代は管理人が不在のため、なんと神社の賽銭箱に入れるシステムでした。夕食のメインはキムチうどんでしたがアボガドとマグロの付け合わせや肉炒めなど他にもお酒がすすむつまみが沢山でした。夕食担当の菊地さんありがとうございました！



翌日の天気は快晴で絶好の登山日

和です。二王子神社の

登山口から登りますが我々よりも早くすでに5人の登山者が登っています。杉木立の山道を登ると1合目の表示がされています。しばらくすると二つに割れた神子石があり、2合目には水場がありました。道が二つに分かれるところを一王子神社の小さい石の祠を見てから一王子避難小屋の所で休憩しました。登山道は良く整備されていて山頂まで登りやすくなっていました。5合目は定高山(994.4m)山頂ですが木立の中にありました。所どころ長い竹竿が立っていましたが積雪時の目印だそうです。8合目あたりからは低木になり季節が良ければ高山植物の花畑になるところがありました。遠くには日本海に粟島が見えました。三王子神社の祠も小さい石でできていました。



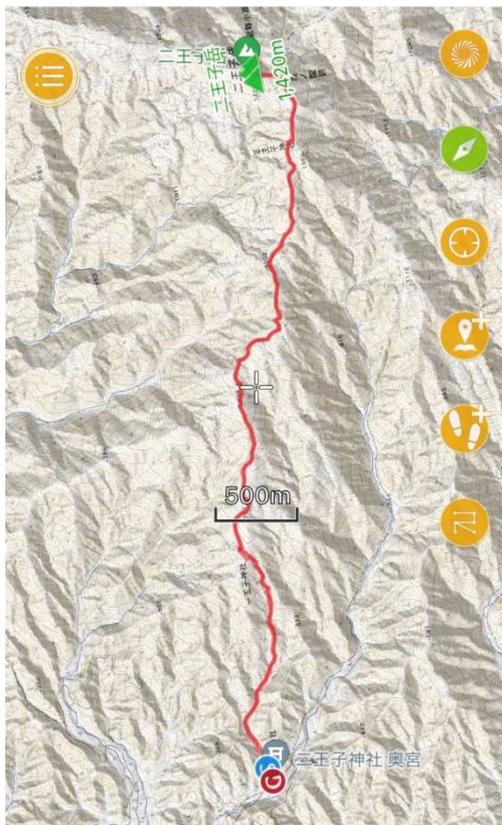


山頂近くにある奥の院はまだ新しい石の祠です。二王子小屋は改装中で資材が周りに積み上げられている脇を通って二王子岳の山頂です。まずは青春の鐘を鳴らします。山頂からの飯豊連峰の眺望は格別でした。天気が良いので遠くの山並みまで望めました。平日なのに登山者がぞくぞくと登ってきます。頂上で十分に休憩をして下山しました。整備された登山道は下山も楽でしたが登りとさほどタイムは変わりませんでした。

#### タイム

二王子神社登山口 6:25 → 一王子神社・一王子避難小屋 7:30 → 5合目定高山 8:20 → 三王子神社 9:45 → 奥ノ院 10:00 → 二王子岳 10:05 (休憩) 11:00 → 二王子神社登山口 14:00

(文責：山中)



# 男沼・女沼・仁田沼

2021年9月29日

下山田、蛭田一二三、尾形夫妻、蛭田みち、佐藤（幸）、野寺、伊藤

秋晴れの水曜日、土湯温泉からの森林、沼湖畔トレッキングに行ってきました。

尾形さんにジオグラフィカを教えてください、緩やかな坂道から森林に入りました。モミジ、カエデ、落葉の小径からきつい登り坂でした。油断していました。加えて暑さもあり、疲労困憊になりました。

静かな男沼の湖畔で休息し、コーヒーとカロリー補充で疲れが取れました。さらに仁田沼（4月はミズバショウ群生地）、思いの滝をくだり、湖かと思うほどの大きさの女沼につきました。吾妻連峰の山並み、黄色に色づき、沼の水面がキラキラと輝き、とても美しい風景でした。専らテレビで百名山の録画をみて過ごしていましたが、晴天、紅葉、そして久しぶりの山の仲間との雑談で楽しい一日でした。マイナスイオンをたっぷり浴びて心身ともにリフレッシュできました。ありがとうございました。

文責：伊藤貴美子

## コースタイム

7：00 水石トンネル出発ー9：00 土湯温泉公営駐車場ー11：00 男沼ー12：10 仁田沼ー12：45 思いの滝ー13：00 女沼ー14：45 土湯温泉公営駐車場ー16：30 水石トンネル到着



# 川桁山（1413m）

2021年9月30日(木)

参加者：秋葉、柏村、吉田（睦）、山中

前日の二王子岳山頂で休憩中に柏村さんからの「しばらく歩いていないので、明日どこか山を歩きたいです。どなたか一緒にしてください。（要約）」のLINEトークがあり、急遽きまった山行「川桁山+まるひの蕎麦」でした。



台風の影響がまだ無く晴天の絶好のコンディションでした。登山口から緩やかな傾斜の林道をしばらく登ります。

尾根にとりつく手前に三十八転び坂と呼ばれている急登が待ちうけていました。乾いた土だったのでなんとか転ばずに登れましたが、雨上がりの濡れた土だったら何度転んでいたのでしょうか？登り切ってからここで最初のロープワーク練習を行いました。この辺りからはブナの林の中を山頂まで登ります。山頂の標識はイマイチでしたが、一部から見える猪苗代湖の展望は格別でした。

下りはまた三十八転び坂のところでもロープワークをし、林道あたりでは空腹もあり「まるひの蕎麦」が目に浮かびなんと歩く速度が速かったこと！みんなの心配は蕎麦が売り切れになっていないかでした。



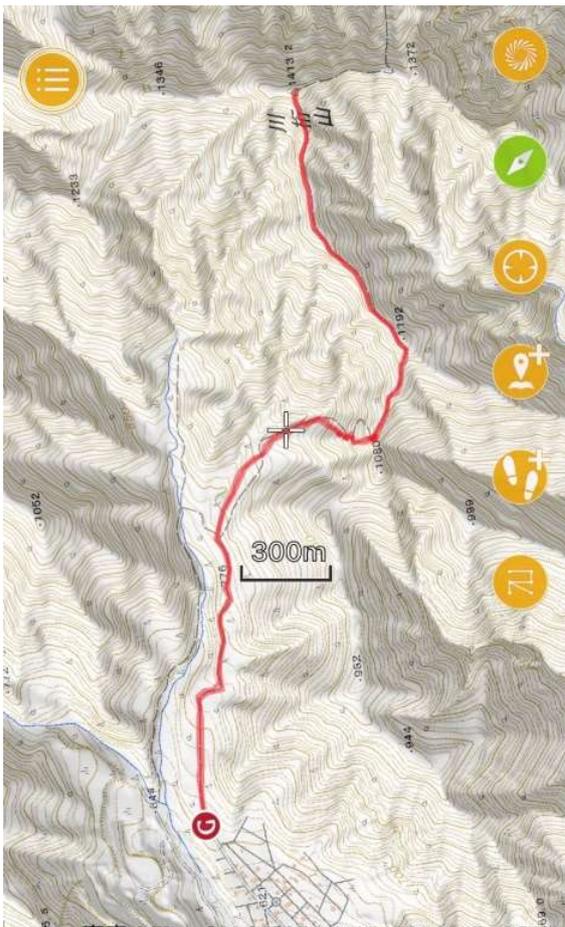
「まるひ」に着くと大丈夫でした。ちゃんと食べることができました。天そば大盛り！美味しくいただきました。



### タイム

千石川登山口7:30→三十八転び坂9:00(ロープワーク)9:35→川桁山山頂10:55  
→三十八転び坂12:00(ロープワーク)12:30→千石川登山口13:00

(文責：山中)



# 四時川 沢登り

2021年10月3日(月)

参加者 秋葉 佐藤(幸) 片岡 山中 佐藤(春)

人生初の沢登り。

10月の水温は、真夏のプールよりもはるかに温かい。

2日前の台風の影響で川は増水していた。膝まで被れば流れの速いところでは足元をすくわれる。

川に流される怖さを実感。そのスリルを含めて面白い。

ロープワーク、垂直下降も勉強になった。

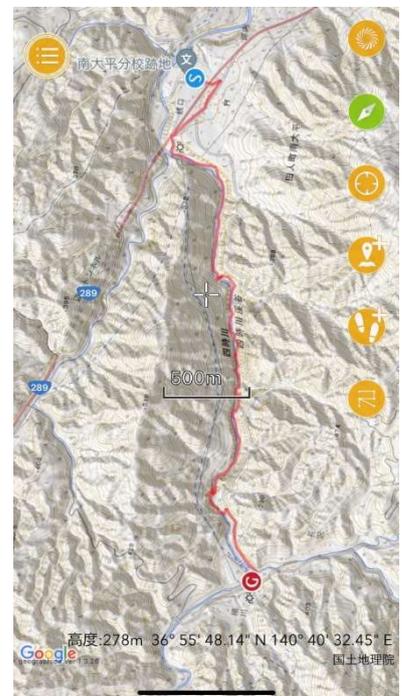


## コースタイム

8:00 田人 おふくろの宿 手前 駐車場集合 → 8:40 四時川 沢登り開始 → 10:40 滝横岩山垂直下降 登はんの実践 → 12:40 「ながせ」にて昼食 → 13:10 解散



文責 佐藤(春)



# 「谷川岳トマの耳 1963mオキの耳 1977m」

2021年10月5日(火)・6日(水)

参加者：山中 剛・登山教室生 国井明夫

報告者 国井明夫

前から谷川岳に登ろうと考え、山中さんと二人の日程があった10月5日(火)に行くことにしました。日程が具体化する前は、ロープウェイで天神平まで登りそこから頂上まで往復と考え、不安は、登山口までの移動距離が長いかなと思っていましたが、テレビ番組で女優さんと女性ガイドが西黒尾根に登り、肩の小屋に泊まり、頂上へ行って天神平へ下りる番組を見て、このコースを登って見ようと思いました。ところが、これが苦しみと絶景と出会いの始まりでした。

10月5日(火)

小浜パーキングに集合し、高速道路で谷川岳ベースプラザまで移動し、ここに車を止めて登山口まで歩いて向いました。この日は、好天に恵まれ、平日に関わらず、多くの観光客と思しき人がロープウェイ乗り場や一の倉沢方面へ向かっていました。



西黒尾根入口

いよいよ登山を開始、西黒尾根コースは、標高795m地点から山頂1,977mまで約1,200mを登ります。(ロープウェイは、1500m地点まで登ってくれます。コースは、別ですが。)私たちは、西黒尾根入口から登り始めます。歩いている国道から見てもかなりの急な斜面です。登り口には、10時頃に到着しました。登り口から気合を入れて登らないと登れません。登り始めると思っていた通りの急登です。

喘ぎながら登っていくと上から若い女性が下りてきました。女性が言うには、「自分も登って行った

らここから200m位先に生き物の黒いお尻が5m先に見えた、小熊のように見えたので、怖くて急いで下りてきた。」とのことで私たちも怖さでしり込みしてロープウェイから登ろうかと思いましたが、山中さんが笛を吹きながら行こうとの言葉で再び登り始めました。そこからは、周りを確認しながら、気持ちはそぞろにどきどきしながら登って行きました。樹林地といつ果てることなく続く登り道を黙々と歩いて行きます。山中さんが前で一定のゆっくりしたペースで歩いてくれたので、何とか林を抜けることができました。13時位にはで林の中を抜けることができたと思いません。



谷川岳山頂

林を過ぎればラクダの背と呼ばれるところに来ます。1,500m地点です。700m登りました。ロープウェイの天神平駅と同じくらいの高さになりました。熊にも合わず一安心。天気は良く、眺望は最高です。遙か彼方の福島・新潟・長野等の山々が見渡せます。

しかし地獄は、この先からでした。ちょっと開けたところで昼食を食べ、残り400mの登りです。目の前に見えるのは垂直に近い飛び出た岩です。ここで先頭が私に代わりました。自分のペースで登



ザンゲ岩

りますが、登るペースが早かったようで途中から足が動かなくなり、歩いては休む、なかなか登れません。ここあたりで NHK 前橋局の取材の方と会いました。紅葉の風景の取材で 11 月 8 日に前橋ローカルで放送されるそうです。

私が動けなくなったので、先頭を代わってもらってゆっくりしたペースで登りましたが、ざんげ岩（1850m）あたりに来たら、足が攀って動くことができなくなりました。山中さんに「つむら 68」をもらって少し休んで、何とか頂上まで登ることができました。本当に途中で帰りたくなりました。

谷川岳の頂上は、トマノ耳とオキノ耳と二つありますが、とりあえずは、山小屋近くのトマノ耳（1,963m）に重いザックを背負って登りました。ここで私は、体力が限界でした。オキノ耳は明日にと思い、

ひとまず、「肩の小屋」へチェックインしました。ところが、明日午前の天気は嵐とのことで、ザックを小屋に預けオキノ耳へ向かい、オキノ耳（1,977m）も攻略することができました。時刻は、16 時頃になっていました。まだまだ天気が良くて谷川岳から見る雄大な風景。山また山は、とても登っ



トマノ耳から肩の小屋



オキノ耳山頂



トマノ耳山頂

てきたかがある風景です。

そして、自分が登ってきた西黒尾根が見えます。あんなところを登ってきたと思うと自分をほめてやりたいと思いました。オキノ耳でも NHK 取材班の人と会い、少しお近づきになれました。女性のガイドさんとお話もできました。



肩の小屋

山小屋に戻ると足が攀って帰れなくなった人がおり、明日一緒に下りて欲しいと頼まれたので、一緒に帰ることとなりました。3 人で来たが、みんな先に帰ってしまったそうです。この方は、ロープウェイできた方です。もう一人、関西方面から来た 76 歳の百名山を目指している方も

翌日一緒に下りてきました。

翌日は、天神平へ降りて、ロープウェイで下るコースを選んでおりましたので、この日より楽な下山のつもりでした。



肩の小屋からの雲の動き

夕食をとり、夕日と雲の雄大な風景を眺め、就寝しました。ビールと焼酎を少々いただきました。夕食は、山小屋で出してもらいました。まーそれなりのこんなものかなという料理でした。夜中に目を覚ますと雨は降っていませんでしたが、猛烈な風が吹き荒れています。自然の驚異を感じました。

10月6日(水)

翌日、朝目覚めると風と雨が猛烈な勢いで吹き荒れています。午後からは、天気良くなる予報ですが、強風では、下山もままなりません。しばらく様子を見ることとしました。

朝の5時頃でしょうか、西黒尾根と登ってきたソコ登山者がきました。夜の3時こと上りはじめ、満天の星空をながめながら登ってきたそうです。怖いもの知らずの登山者です。これから一ノ倉沢岳方面へ縦走するそうです。山小屋で朝食を食べて出ていきました。

私たちは、しばらく様子を見ていましたが、風がやんだ8時頃に下山することとしました。NHKの女性ガイドのアドバイスを受けました。

足が攀った人と百名山をめざすお年寄りと4人で、雨に濡れた登山道を下りていきます。お年寄りは、片手にストックを持ち、片手にペットボトルを持って下りて行きます。足の攀った人は、前の人と間を詰めて下りていきます。怖いもの知らずに。一緒に下りたくないと思いました。雨で濡れた



小屋から直ぐの下り



天神平

路面、石が濡れています。鎖場があります。ロープも張ってある場所もあります。そんなところは、慎重に下りなくてはならないのに何を考えているのか。私は、慎重下りました。こちらのコースも西黒尾根ほどではないですが、危険な箇所はあります。

下って行くと雨なのに結構登って来る人がいます。紅葉と谷川岳の雄大な景色を見に来ているんだと思いました。4人は、無事に天神平のロープウェイ乗り場に到着しました。ここで二人とはわかれしました。

それからは、谷川温泉に入り、そばを食べて、水上インターからいわき勿来インターまで4時間かけて帰ってきました。

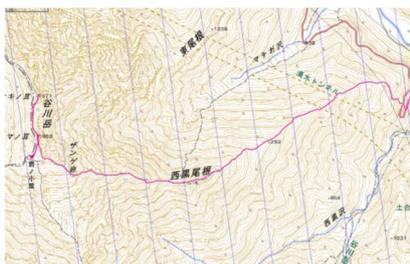
いろいろな方と出会い、山中さんに励まされて谷川岳の雄大な風景を堪能できました。感謝感激です。

【コースタイム】

1日目 谷川岳ベースプラザ10:00→登山口10:15→ラクダの背12:45→頭敵剛新道分岐13:22→ザング岩14:40→トマの耳15:15→肩の小屋15:30→オキの耳16:10→肩の小屋16:30泊

2日目 肩の小屋8:30→天神ザング8:50→9:20天狗の留まり場9:20→熊穴沢避難小屋10:10→天神平駅11:10

1日目



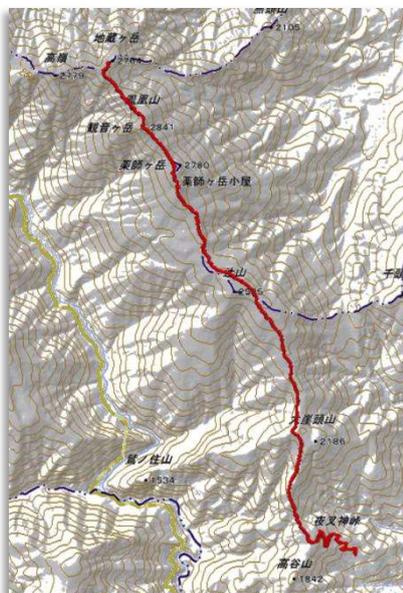
2日目



# 鳳凰三山 夜叉神峠登山口からピストンで

2021年10月9、10日

小林憲兒、美也子(会員外)



2年前の8月に登山教室で行った鳳凰三山へもう一度。あの時は暑さにやられてへろへろだったので、リベンジに行きました。

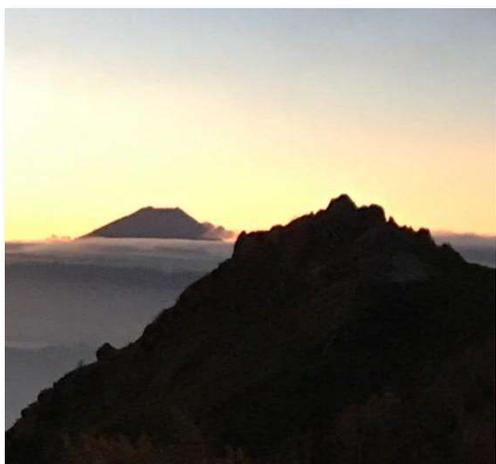
前夜、夜叉神峠登山口駐車場で車中泊。思いのほか少なく20台程度でした。

計画では地藏岳から広河原に下山、バスで戻る予定でしたが、高嶺から激下りなので急遽、夜叉神峠ピストンに計画変更しました。

隣の車の話し声に起こされ、おっと予定の4:00を過ぎていると急いで(実はもたもた)準備し、星空の元、ハッデンスタートでした。

夜叉神峠までは順調です。峠小屋前からも北岳、間ノ岳、農鳥岳がバッチリ見えました。が天気もここまで、西側からガスが上がってきてしまいました。

前回ほどへろへろではないもののやはり道のりは長い。杖立峠、苺平を經由して南小室小屋到着。南アルプスの天然水を補給。前はここから暗闇の中ハッデンで歩いたなーとの記憶だけ。前回のような絶景を期待したものの、今日は砂払岳の頂上から何も見えませんでした。天気が良ければ今日の内に地藏岳までと考えていたものの、時間もギリギリで景色も見えないので1日目は終了としました。



薬師岳小屋(南小室小屋も同じ)はシュラフ持参はもちろん、使用したトイレトペーパーも口を付けた缶ビールの空き缶などもお持ち帰り。食事以外は小屋内での飲食禁止とコロナ対策がかなりキビシイ小屋でした。寝床は完全に2人ずつにパーティションされていて現在は定員13人(当日は8人でした)に制限されていました。今回外トイレ(水洗)のみ使用可でしたがキレイな小屋でした。小屋番さんが少し口うるさいけどね。



2日目、朝4時に起床。外に出ると風は強いものの満点の星空でした。今日こそはと期待が膨らみます。まずは薬師岳まで約10分程、山頂はまだ暗闇の中で空が薄っすらと明け



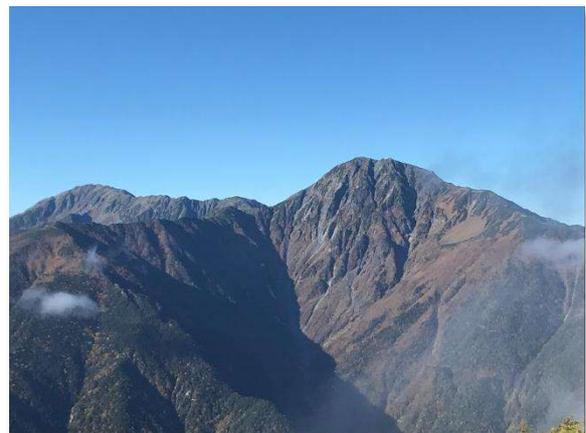
てきましたが、風があるので観音岳へ向かいました。途中で振り返ると富士山が(見えてよかった)。雲が厚く、日の出の時間を過ぎてようやく薄雲の中からご来光を拝むことができました。今日は、東側から雲がビュンビュン飛んできます。観音岳からも前回のような絶景は見ることができませんでしたが、地藏岳へ向かう途中で地藏岳のオベリスクと甲斐駒ヶ岳も見ることができました。観音岳から赤抜沢ノ頭まではアップダウンで疲れました。残念ながらオベリスクはガスの中で、地藏岳の標識で記念撮影し戻ることになりました。同宿で前後して歩いてきた方は広河原に下山するとのことです。赤抜沢ノ頭でお別れしましたが、どんなコースなのか気になります。岩陰で朝ごはんの後、来た道に戻ります。相変わらずのガス

ガスでアップダウンがこたえますが、時々、北岳が姿を現し癒されました。10日は北岳も八ヶ岳も晴れていたようで、北岳から鳳凰三山を撮った写真をみると鳳凰三山の上だけ雲がかかっていた。近くてもこんなに条件が違うんだな〜と改めて思います。

薬師岳小屋でゆっくり休憩し、無事夜叉神峠登山口まで下山しました。

期待した絶景の稜線歩きはできませんでしたが、時々すばらしい景色も望め満足した2日間でした。

【1日目】夜叉神峠登山口 5:20~6:20 夜叉神峠  
~7:40 杖立峠 7:58~10:06 南御室小屋 10:25  
~砂払岳~12:00 薬師岳小屋 【2日目】薬師岳  
小屋 4:58~薬師岳 5:05~5:31 観音岳 5:50~  
6:43 赤抜沢ノ頭~6:58 地藏岳 7:05~赤抜沢ノ  
頭(休憩)~8:48 観音岳~9:13 薬師岳~9:25 薬  
師岳小屋 10:15~砂払岳~11:00 南御室小屋  
11:20~12:55 杖立峠 13:10~14:00 夜叉神峠小屋~14:48 登山口  
(文責 小林憲兒)



# 10月登山教室「八ヶ岳（天狗岳）」

2021年10月10日（日）・11日（月）

参加者：教室生 佐藤（秀）、安部、佐藤（春）、山中、青天目、国井  
山岳会 10名



白駒の池

10月の登山教室山行は、初の県外の山「八ヶ岳（天狗岳）」を登ることとなった。4月の登山教室山行担当決めの際に「八ヶ岳」という言葉に憧れを覚え、何の考えもなく希望した。これが、私にとって学習の始まりとなった。やはり、八ヶ岳までは、遠かった。

## 1日目

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からマイクロバスを使わず、かげつ斎苑湯本脇駐車スペースに集合して参加者の車3台

に分乗して高速道路を使って登山口「白駒池駐車場」へ向かった。白駒池駐車場は、10月第1週と第2週は白駒池の紅葉が最盛期で駐車場から白駒池まで15分程度行けることもあり、平日でも大混雑、週末には、午前5時には、ほぼ満車となるところである。

この日も当然のごとく混雑していて駐車場から約1キロの駐車待ちの車の列が続いていた。私たちは、3台のうち1台が道路の空スペースに止められたので、残りの2台は、7キロ近く離れた八千穂高原スキー場駐車場に止め、シャトルバス（シャトルバスは土日のみ）に乗って白駒池駐車場に向かった。



白駒の池看板



苔の森

登山を開始。白駒池入口で大きな木「白駒の池」の標識から登山道を歩く、周りにはたくさんの方が軽装で歩いて行く。白駒池まで行く登山道の左右には幻想的な苔の森が見られる。白駒池に到着、池の周りは、赤や黄色に彩られ木が素晴らしい景色を見せてくれる。苔の森、池を彩る紅葉、多くの方が訪れる理由がわかる。

池を半周してニューへ向かう登山道へ入る。ここも苔の森が素晴らしい。まだ、そんなに上ってはいない。途中に白駒湿原を通過して分岐へ向かう。

分岐でコンパスを秋葉校長の指示で向かう方向を確認。しかし、岩場でコンパスがぐるってしまうよううまくはいかない。しばらくぶりに使うコンパスのやり方が忘れてしまい、山岳会の先輩に教えてもらった。ここから、ニューまでは、急な登りとなる。

ニューまであと少しのところ白樺尾根分岐でお昼とした。ニューは、岩場で多くの方が岩場の下でお昼をとっている。私たちは、岩の上に上りみんなで写真を撮ってきた。このころから、南の方面の稲子岳方面から雲が出て眺望が悪くなった。



苔の森での記念撮影

ニューを過ぎ、稜線を中山峠方面に向かう。ニュー分岐まで来た。

雨がちらついてきた。中山峠を過ぎると黒百合ヒュッテは、直ぐだ。

黒百合ヒュッテに到着、築 60 年経っているため、現在改装中だ。コロナや工事のため、150 人定員のところ約 30 人に絞ってやっているとのこと。外は寒くなってきた。中に入り、食堂で各自持参の飲み物やつまみで各自軽く一杯、5 時 30 分には、夕食となった。ここの山小屋は、ハンバーグが有名なのだそうだ。7 時頃には就寝、やはり朝が早かったので、寝るのも早い。少しいびきをかいている人もいたが、よく眠れた。

## 2 日目



黒百合ヒュッテでの記念撮影

翌日、前日が午後 7 時頃に寝ているので、みんな朝が早い、午前 5 時前には、起きていたと思う。5 時 30 分に朝食、その後出発の準備をして、黒百合ヒュッテ前で全員での記念撮影。6 時 45 分には、東天狗岳へ、予定より 15 分早い。ここで、下山田会長は、単独で早めの下山、高見石小屋か、白駒荘で落ち合うことになった。

天狗の奥庭を通るルートを通して東天狗岳へ進む。絶好の天気、遠く北アルプスや中央アルプスや群馬の山並

みが見通せる。風が強い。石がごろごろして歩いて歩きにくい。注意しながら、天狗の庭、天狗の奥庭をとおり、東天狗岳へ一度ピークを過ぎて、再度登り、やっと山頂へ、2,640m 到着。360 度見渡せる。最高の眺望、しばし景色に見とれる。風が強い。

頂上から少し下にザックをデポして、西天狗岳へ。こちらは、風がない。こちらでも 360 度見渡せる。東天狗岳へ戻り、西天狗岳に行かなかった人と合流。ここで秋葉校長からここから見える山々の紹介をしてもらった。100 名山がたくさん見られる。本当にいい天気に恵まれたものだ。

東天狗岳から中山峠に向かって進む。結構急な下りだ。石ころもゴロゴロして歩いて歩きにくい。中山峠まで来るとしばし、休憩。

ここから中山は、初めは石がなくなり、中山の手間まで来ると石が出てきた。東天狗岳の登りよりは楽だ。



西天狗岳



高見石小屋

中山の頂上は、林の中、何も見えない。頂上を過ぎ、まもなく進むと見晴らしのいい岩場の展望台に出る。あまり休憩することなく高見石小屋まで下る。このくだりが長い、石や木の根っこが出ていて歩きにくい。途中で下から登ってきた登山者から高見石小屋の揚げパンは売り切れの情報进行をもらう。出発前に高見石小屋に聞いていたので、ショックは少ない。

高見石小屋で昼食、高見石に上る、上からは白駒池が見える。まだまだいい天気。ここで、帰路のため 2

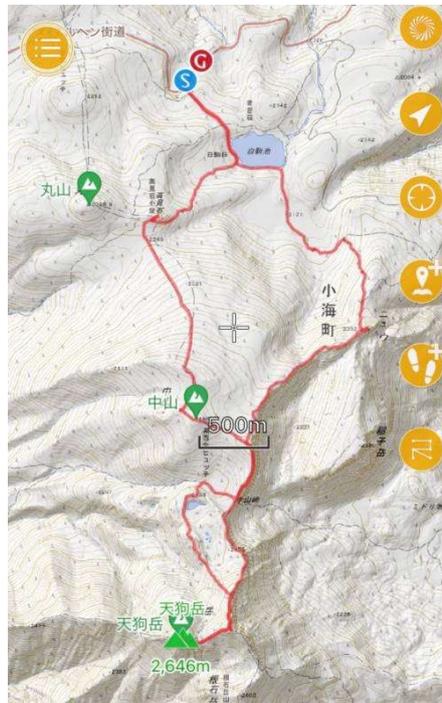
人が先に下山して、車を白駒池駐車場付近に上げるようにした。ここまでは、予定の時間通り。

高見石小屋から白駒池まで下り、白駒荘で下山田会長と合流。白駒池駐車場まで歩き、そこからメルヘン街道駐車スペースまで歩く。若干の行き違いにより時間のロス。しばらく車を待つこととなった。

帰りは、八峰の湯でお風呂に入り、高速道路でかげつ斎苑湯本脇駐車スペースへ無事に到着しました。いろいろありましたが、参加者がいわきに無事に到着したことで安心しました。皆さんありがとうございました。

文責 国井明夫

【コースタイム】 1日目 白駒池駐車場 10:00→白駒荘 10:15→白樺尾根分岐（昼食）12:00→  
ニュー 12:40→ニュー分岐 14:00→中山峠 14:15→黒百合ヒュッテ 14:20  
2日目 黒百合ヒュッテ 6:45→東天狗岳 8:20→西天狗岳 8:50→東天狗岳 9:20→中山峠 10:50→  
ニュー分岐 11:05→中山 11:17→中山展望台 11:25→高見石小屋（昼食）12:30→白駒荘 14:10  
白駒池駐車場 14:30



# 石城山岳会登山教室 10月山行「八ヶ岳」報告書

2021年10月10日(日)～10月11日(月)

参加者 教室生 国井 山中 青天目 安部 佐藤(秀) 佐藤(春)  
会員 下山田 秋葉 蛭田(一) 尾形(成) 尾形(長) 柏村 菊地 芳賀 蛭田(み) 佐藤(幸)

朝5時頃、パラパラと雨模様。

それが長い県境のトンネルを抜けたとたん青空が。

「これはいけるぞー！」

指導係の菊地さん、リーダー国井さんきめ細やかな心配りと参加者全員の人徳か、素晴らしい一泊山行となりました。

文責 佐藤(春)



# 石裂山（879m）

2021年10月10日（日） 太

感染症対策で中止となっていた昨年4月の月例山行「石裂山」をソロで登った。

前夜市内を発ち、東北道・鹿沼ICを経て、翌1時過ぎに加蘇山神社駐車場に到着。すぐに車中仮眠。5時起床で身支度を整え、軽い朝食。駐車場には様々な注意案内、「マムシ注意」、「熊注意」、「転落死傷事故多発」、「本格的登山及びロッククライミング等の経験のない方は、入山しないでください」などがある。前夜の小雨に加え、曇天で霧の早朝なので、気を引き締めて出発。

神社に立ち寄ってから、休憩所の四阿までは沢地形の中を登る。小さなマムシ1匹のほかは、クマは出なかった。休憩所の少し先に周回コース分岐があり、時計回り、奥ノ宮方向へ進む。すぐ先で、沢が細くなった場所に「千本桂」。指道標を見て樹林を想像していたが、無数の幹に分かれした巨木に見えた。

沢から中ノ宮の平場に登ると、四阿があり、行者帰シノ岩の前に「ここから先が登山コース」との案内注意。左奥に少し進むと最初のハシゴがある。それを登った先に奥ノ宮に登るハシゴがあるので、登って立ち寄る。奥ノ宮は天然の大きな岩窟で、入口の鳥居からすぐ奥、薄暗い中に御簾の下りた祠が鎮座し、修験の場らしい独特の雰囲気漂う。

奥ノ宮のハシゴを下りて戻ると、周回コースは岩窟、岩壁を巻くように進む。細く険しい尾根を、木の根、クサリ、ハシゴを頼りに登り、階段や橋、栈道など通過する。ほぼ登り切って、主尾根に出て少し行けば東剣ノ峰。主尾根の樹林歩きで安心するのは早計で、すぐにコース屈指の難所、6～7連続ハシゴになる。注意して下り、登り返すと西剣ノ峰。ここからも、また連続ハシゴで下り、登り返して周回コースから少し外れたところが石裂山の山頂。三等三角点（点名「尾鑿」879.53m）標石と山名板を写真におさめ、月山へ向かう。月山までは特別な難所はないと思われた。

月山の山頂は、平場で鳥居や石祠がある。山名板を兼ねた古い指道標では小川沢にも下れるようになっていたが、YAMAP地図では通行止めの表示。鳥居をくぐって加蘇山神社方向へ下山する。尾根の急斜面のジグザク、沢斜面の横断はあるものの、ハシゴは1か所のみである。転倒に気をつけながら分岐まで下り、休憩所の四阿で一息ついて加蘇山神社駐車場に戻った。

文責：太

## タイム

6：15 加蘇山神社駐車場→6：45 休憩所・周回コース分岐→6：55 千本桂

→7：20 中ノ宮・行者帰シノ岩→7：45 奥ノ宮→8：40 東剣ノ峰→8：50 西剣ノ峰

→9：10 石裂山→9：30 月山→10：30 周回コース分岐・休憩所→10：50 加蘇山神社駐車場





# 惣山（816m）前山（835m）

2021年10月18日(月)

参加者：秋葉、栗崎（透）、栗崎（容）、山中

紅葉の湖・山を期待して行きましたが温暖化の影響で例年より遅くなったのかまだ紅葉には早かったです。しかしお天気には恵まれました。沼沢湖は約5000年前の噴火でできたカルデラ湖で、おしゃれなグランピングもあるキャンプ場があり雰囲気が良い湖でした。



沼沢湖の外輪山である惣山と前山を巡り、湖の周りを一周する約10kmのトレイルコースです。沼沢湖駐車場に車を置いてキャンプ場から出発です。湖の対岸には惣山が望めています。湖沿いに歩き、車道にでてから少し行くと鳥居があり、ここが福沢登山口になります。杉林の中を登り始めると間伐している音が鳴り響いており業者さんに笛で合図をして安全を確認して登りました。尾根に出ると広葉樹の中を歩きます。一週間後くらいが紅葉の見ごろなのでしょうか、少し早かったようです。鎖場やロープがある岩場を通過すると惣山山頂です。山頂にはアンテナがあり管理者の車も止まっています。少し興ざめました。また、眺望もあまりなく残念でした。山頂からは下りになり野鳥の森（太郎布の分岐）で小休止してから前山への登りになります。前山山頂で昼食タイムです。山頂からの見晴らしは無く山頂から少し行ったところに展望が開けるところがありました。前山から下り、湖沿いを歩いてゴールです。

紅葉には少し早かったですが天気も良く沼沢湖がきれいで楽しい山行になりました。

[タイム]

沼沢湖キャンプ場 8:30 → 福沢登山口 9:00 → 惣山山頂 10:20 → 太郎布分岐 11:10 → 前山山頂 11:45 → 沼沢湖キャンプ場 13:30

(文責：山中)



# 弥陀ヶ池（日光白根山 登頂断念！！）

2021年10月20日（水）

参加者：青天目、安部、山中

新車購入記念と紅葉を眺めながらの山行を同期生3人で楽しむために奥日光の日光白根山に行きました。風は強いものの天気予報は晴れ。東北自動車道から日光宇都宮道路に入ったあたりからは予報通りに天候も晴れていて男体山など奥日光の山々がきれいに望め3人ともテンションが上がっていました。いろは坂もスムーズに過ぎ、中禅寺湖は風が強いために波立ってはいましたがますますの登山日和と思っていたところ！？菅沼登山口駐車場に到着する頃には雲行きが怪しくなってきました。登山準備をしているうちに風に小雪が混じってきました。とりあえず弥陀ヶ池まで行ってその時の状況を見て先に行くか戻るかを決めようと話し合い登山を開始しました。



菅沼登山口から最初はなだらかな山道を歩きます。雪はさほど降っていません。少しずつ山道の傾斜が増えてゆき登りが始まりました。雪も少しではありますが降りつづき登山道にも雪が薄っすらとし始めましたが登るには支障はありません。座禅山を迂回するあたりから弥陀ヶ池に到着する頃は雪が積もり始めました。途中、山頂より下りてきた若者3人組に山頂の状況を聞いたところ強風かつ視界も悪いとのことでした。弥陀ヶ池に到着すると雪に加えて風が大変強くなりこの状況では日光白根山への登頂は諦めざるを得ないと判断しました。残念ですが引き返すことにしました。そのまま下山して湯元温泉で入浴してから帰りました。

今回の雪には驚きましたが、自然相手には想定外のことがおこり、それに備えた装備の用意が大切だということが実感でき教訓になりました。



[タイム]

菅沼登山口 8:45 → 弥陀ヶ池 10:40 → 菅沼登山口 12:30

(文責：山中)



# 戸隠神社

10月23日 秋葉信夫、小林憲児、太 清光、渡辺敏夫

10月月例山行として、23、24日で戸隠山と高妻山に登る予定で、23日早朝3:30過ぎに水石トンネル駐車場を出発、8:00過ぎに戸隠牧場キャンプ場に到着するが、あいにくの雨模様で、どうやら今日の戸隠山の登山は中止になりそうだ。8:30にキャンプ場の受付が始まりチェックインをして、テントが張れそうな場所を見つけるが、雨と時折みぞれの中ではテントを張るのを見合わせ、雨が止むのを待った。お昼近くになり雨が小降りになりテントを設営、お昼を食べて戸隠山は無理なので、戸隠神社へ散策に出かけた。ささやきの小路を通過して戸隠神社の中門のところに出て、戸隠神社奥社、中者と巡回して4時前にキャンプ場に戻った。午後になると天気が回復する予想であったが、雨やみぞれが小やみになる時期もあったが、結局雨が止むことはなく天気は回復しなかった。歩いた距離はおおよそ10km、3時間半の足慣らしでした。テントに入り明日の天気の回復を願いながら、

各自が持ち寄った食料を肴に早速天気祭りを始め、9時前に寝袋に入り、明日の天気の回復を願いながら眠りに落ちた。

コースタイム キャンプ場  
12:25→戸隠神社奥社 13:30→  
戸隠神社入り口 14:13→戸隠神  
社中者 14:44→戸隠神社入り口  
15:12→キャンプ場 15:50  
文責 渡辺敏夫



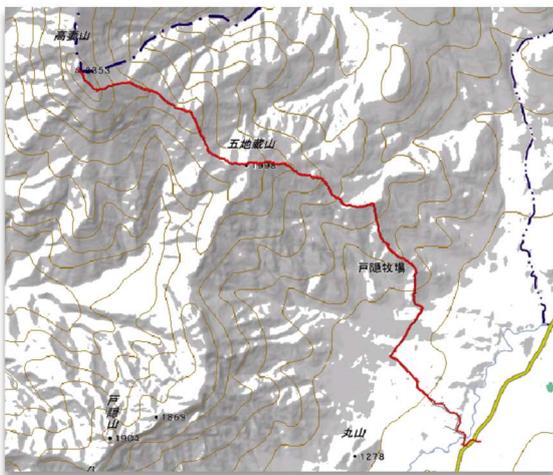
# 10月 月例山行 高妻山 (2,353m)

2021年10月24日

渡辺、秋葉、太、小林



槍・穂高 北アルプスの山々



昨日とは一転して良い天気のように。今日も準備に時間がかかり皆さんをお待たせしてしまいましたが、暗闇の中イースタンキャンプ場を出発し、戸隠キャンプ場の中を登山口に向けて歩きました。正面に見える戸隠山は白く、軽アイゼンを持ってこなかったので雪道をどこまで行けるか不安がよぎります。



戸隠牧場を歩くうちに空も白みはじめ、飯綱山の上空が輝きだした。朝日を受けた黒姫山も美しい。

登山口に到着し、弥勒尾根（弥勒新道）から五地藏山を目指す。五地藏山までコースタイム2.5時間。初めは少し木の根が張り出しているものの歩きやす



蔵山（六弥勒）に到着しました。この手高妻山を断念し下山する人もすれ違い、りました。



い登山道で、45分ほど進んだブナ仙人を過ぎたあたりから道端に雪が見えだしました。進むにつれ雪が多くなり、いくつか鎖やロープが設置された急登（登りは使用しなくても大丈夫）を過ぎ五地蔵前から完全に雪道で、なおさら不安感が高ま

六弥勒でどうしようかなと思っていると、秋葉さんからグネグネ（ギアタイというみたいです）

を靴に巻けば行けるとのこと。太さんもアイゼンを持参しておらず、ここで下山するという。グネグネをお借りして不安ながらも先を目指すことにしました（太さん申し訳ありません）。

六弥勒からは下りで、歩き始めるとグネグネが予想以上に効くことに驚きました。七薬師、八観音にも気付かず、登り返して九勢至に到着しました。この手前では、後立山連峰が見えていた（と思います）が、目指す山頂はガスがかかっています。いよいよ山頂に向けての急登で、登るにつれ斜度が増し、雪も20~30cm程度積もっていました。ただ、急斜面には鎖が設置されていて、危険箇所は少なかったように思います。道の先に空が見えるので、ようやく山頂到着かと期待するもここからは緩やかな登りでまだ先ようです。何人かが休憩している場所があったのでここが山頂と期待するも、十阿弥陀さんと、またもや山頂はその先でした。

ようやく山頂に到着しましたが、残念ながら雲で360°の景色は望めませんでした。ここで昼休みとなり、休憩中に上空に晴れ間が広がり、風もないことからTシャツ1枚でも大丈夫な陽気でした。



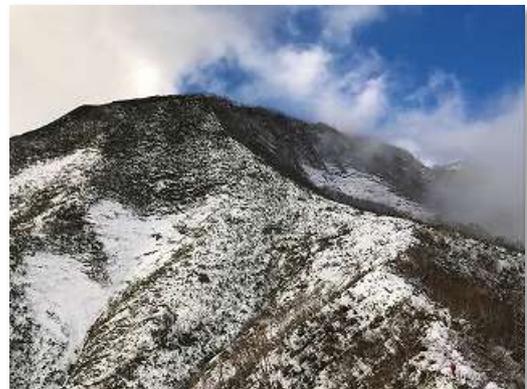
山頂に人も増えてきたので下山します。今日は下山が核心部。急斜面は鎖とストックでなんとか滑らずに下りるも、なんでもなくて4回も尻もちをつく始末でした。中盤からのドロドロ路では2回すべりましたが、なんとか耐えてセーフでした。登山口までの下りがすごく長く感じました。

先に下山した太さんがテントを撤収し、

戸隠牧場の駐車場まで車を移動してくれたので助かりました。

なかなかに厳しい山でしたが、途中で槍・穂高、笠ヶ岳、鹿島槍から五竜・唐松など北アルプスの山々も望め充実した1日となりました。

往復の長時間の運転をしていただいた渡辺さん、太さんありがとうございます。また、秋葉さんグネグネのおかげで無事登頂下山でき、ありがとうございました。



戸隠イースタンキャンプ場 5:50~登山口（弥勒尾根入口）6:10~9:00 五地蔵山（六弥勒）9:10~九勢至 10:05~11:20 高妻山山頂 12:00~五地蔵山 13:45~15:15 登山口~15:30 戸隠牧場

（文責 小林憲児）